

第2回キャンドルフェスタ開催  
3500個の手作りランタン

10月1日(土)、揖斐高原貝月里ゾーンで第2回キャンドルフェスタが開催されました。

このイベントは、スキー以外の揖斐高原の楽しみ方を提案しようと、財団法人いびがわが企画。町内9小学校の児童約1000人らが作成したペットボトルのランタンが約3500個用意され、幻想的な光景が広がっていました。

訪れた親子らは、「きれい」と感嘆の声をあげて幻想的な雰囲気を楽しんでいました。

また、野外ステージでは、サツクス四重奏のコンサートも行われ、ゲレンデに広がる幻想美を音楽で演出しました。



▲幻想的な光に包まれました

岐阜県重要無形民俗文化財  
春日の太鼓踊り

10月8日(土)は春日<sup>かみか</sup>上ヶ流<sup>がれ</sup>地区、9日(日)には春日<sup>しもがれ</sup>下ヶ流<sup>がれ</sup>地区、10月29日(土)と30日(日)には春日<sup>もとなかぜ</sup>種本<sup>もとなかぜ</sup>中瀬地区で太鼓踊りが披露されました。

春日の太鼓踊りは、豊年祈願や感謝の踊りとして古くから人々に親しまれ、岐阜県重要無形民俗文化財に指定されています。

鮮やかな衣装を身にまとった踊り手が太鼓を付け、鉦や笛の音色に合わせて踊る姿はとても華麗です。

春日の太鼓踊りは鎌倉踊りとも呼ばれており、唄には、鎌倉殿やお姫様などのことも唄われ、鎌倉時代から始まったと伝えられています。

上ヶ流、下ヶ流地区の踊りは、踊りの輪の中心に「ザイ」と呼ばれる先端にきれいな布がついた棒状の物を持った踊り手があります。周りを囲む10人あまりの踊り手は、お囃子に合せ、胸に抱えた太鼓を打ち鳴らしながら、時にはゆっくりと時には激しく踊ります。それぞれ各地域の神社など、数か所でお昼から夜までかけて踊りが披露されました。



▲下ヶ流太鼓踊り



▲上ヶ流太鼓踊り



▲種本中瀬太鼓踊り

種本<sup>たねもとなかぜ</sup>中瀬地区の太鼓踊りは、中心の踊り手が色鮮やかな「バンバラ」と呼ばれる背負いものを身につけ、周りを囲む10人あまりの踊り手とともに、種本六社神社や中郷熊野神社に踊りが奉納されました。

種本中瀬太鼓踊りは、他の地区に比べ、太鼓を打つ姿勢が腰を引いた低い構えであることが特徴です。

春日の太鼓踊りは、地域ごとに特色があり、地域の皆さんが、心を合わせて伝統芸能を受け継ぐことで、地域のつながりがより強いものになっていくことでしょう。

**坂内広瀬の秋まつり  
農作物の収穫に感謝**

10月9日(日)、坂内広瀬地区で秋まつりが行われました。

広瀬の秋まつりは、農作物の収穫に感謝する行事として、古くから親しまれています。

広瀬神社では、神事が行われ、浦安の舞が奉納されました。そして、多くの観衆が見守る中、広瀬地区に伝わる太鼓踊りが始まり「宮立ち」「毬」が披露されました。  
坂内地域の皆さんが、力を合わせて古くから伝わる広瀬の太鼓踊りを受け継いでいます。



▲広瀬神社での奉納踊り

**養老鉄道揖斐駅で自転車安全点検  
〈全国地域安全運動〉**

10月14日(金)、養老鉄道揖斐駅前の駐輪場で自転車安全点検が行われました。この取り組みは、10月11日〜20日にかけて展開された「全国地域安全運動」の一環で、揖斐警察署と揖斐川町自転車組合らが主体となって実施しました。

およそ130台の自転車を点検し、その内容は、「鍵がかかっているか」「防犯登録がされているか」の確認で、不備があれば、自転車のハンドルに安全啓発の札を付けました。

また、警ら重点地区が町内で4か所設定され、揖斐駅のほかに藤橋道の駅、谷汲道の駅、根尾川谷汲温泉でも地域安全運動が行われました。



▲自転車安全点検の様子 (養老鉄道揖斐駅前)

**こいやーかすがまつり開催**

10月16日(日)、春日モリモリ村で、こいやーかすがまつりが開かれ、地域の皆さんなど、約1300人が来場しました。

このイベントは、文化交流や地域の活性化を目的に行われています。会場では、特設ステージで地元の子園児・児童・生徒・サークルなどによる発表が行われ、テントブースでは、地域の新鮮な野菜などの販売やバザーも人気で、商品を買いたい求めるお客で賑わっていました。

その他、大道芸人ショーや歌謡ショー、春日の太鼓踊りなど、盛りだくさんの内容で、来場者は楽しい1日を過ごしました。



▲児童によるよさこい披露

**東日本大震災被災地の  
殉職消防団員遺族へ見舞金**

10月19日(水)、揖斐郡3町の消防団長から各町長へ東日本大震災被災地の殉職消防団員遺族への見舞金が寄託されました。

この見舞金は、3月11日に発生した東日本大震災の被災地で殉職した消防団員の遺族を応援したいとの目的で、揖斐郡消防協会が揖斐郡3町の消防団に募金を呼びかけました。

各町に託された見舞金は、日本消防協会を通じて被災地の遺族の方々に届けられます。



▲集まった見舞金が寄託されました



▲接客をする生徒たち

10月19日(水)と20日(木)に県立揖斐高等学校の生徒による「揖斐高シヨップ」が揖斐川町上町の空き店舗を利用して開かれ、大勢のお客でにぎわいました。  
 揖斐高シヨップは、普通科情報コース3年生の生徒が商業流通の授業の一環として運営。仕入れから販売の経理までを行います。生活環境科の生徒が作ったアクリルたわしやエプロン、パウンドケーキ、町の友好都市である北海道芽室町の特産品など、30種類ほどの商品が並びました。  
 生徒は「多くのお客さんに来ていただけてうれしいです。」と話していました。

揖斐高シヨップ大盛況



▲拾ったゴミを分別する参加者

10月23日(日)、揖斐川河川敷を中心に、町内全域で川と海のクリーン大作戦が行われ、揖斐建設業協会、町内小中学校、各種団体、地域住民を合わせ800人の皆さんが参加されました。  
 この取り組みは、ごみを捨てない心を育んでもらおうと、国土交通省の提唱で行われており、各自治体や賛同する企業・団体などがゴミ拾いを行なう事業です。  
 この日集まったのは、ペットボトル、空き缶、粗大ごみなど、およそ2トンでした。  
 今後も皆さんで美しい水辺環境を守っていきましょう。

川と海のクリーン大作戦  
 美しい水辺環境を保つ



▲新米のおにぎりがふるまわれました

10月23日(日)、秘湯「白龍の湯」(日坂)で、日頃の利用客に感謝することを目的に秋の感謝祭が行われました。  
 爽やかな秋晴れの中、10時のオープンと同時に記念のテープカットが行われました。先着1000人の方には、新米のおにぎりとしんじりがふるまわれました。おにぎりは、「揖斐高原米コシヒカリ」で、揖斐川町内でも日坂地区のみで生産されておられ、一定の生産基準をクリアした希少価値の高いお米が使用されました。また、会場には新鮮野菜等も販売され、訪れた利用客に大変好評でした。

秘湯「白龍の湯」  
 秋の感謝祭



▲金婚式で祝福を受ける竹中さん夫妻

10月23日(日)「恋のつり橋」(西津汲)周辺で、恋のつり橋フェスティバルが開催されました。  
 このイベントは、恋をテーマに地域の活性化を図ることを目的としてNPO法人たからのやま久瀬が主催し、中部学院大学の学生らが運営などに協力しました。  
 午前中には、恋のつり橋と夫婦滝を往復するウォーキングが行われ、メイン会場では、結ばれマス、バーガーや恋(濃い)カレーなどが販売されたり、地元住民の金婚式などが行われ、会場は祝福と幸せな雰囲気にあふれていました。

恋のつり橋フェスティバル

ぎふオレンジリボン  
キャラバン隊が揖斐川町を訪問

10月25日(火)、児童虐待防止のシンボルである「オレンジリボン」(オレンジリボン)には子どもへの虐待を防止するというメッセージが込められています。)を活用した「ぎふオレンジリボン・キャラバン隊」が揖斐川町を訪れました。

キャラバン隊は、11月の「児童虐待防止推進月間」に向けて県内市町村を訪問し、啓発活動を展開しました。

キャラバン隊から富田副町長へ「虐待は、どこの家庭、地域でも起こり得る問題であり、住民一人ひとりがこの問題への理解を深め、共に行動しましょう」と古田知事からのメッセージが手渡され、富田副町長は、「虐待のない社会の実現を目指し行動します。」と決意を表明しました。



▲虐待のない社会を目指して行動します

アースデイ・いびがわ開催  
〜環境を考える〜

10月9日(日)、ラーニングアール横蔵(谷汲木曾屋)で、ごみの減量や地球温暖化防止を考える環境イベント「アースデイ・いびがわ」が開催されました。

このイベントは、西濃地域の環境NPOなどで組織する実行委員会が開催。エコバッグやマイ箸など、環境にやさしい行動を広める「ぎふ・エコライフ推進プロジェクト」をPRすることを目的として昨年に引き続いて開催されました。

ハツシモと美濃いび茶を使用したお茶漬け選手権では、10種類のお茶漬が並び、人気投票で上南方の喫茶ヤマトが出品した「鹿茶漬」がグランプリに輝きました。



▲お茶漬け選手権は大盛況でした

セントジョージマラソン派遣団  
体験報告が届きました。

9月28日(水)〜10月5日(水)の間、セントジョージマラソン派遣団として、セントジョージマラソンに参加されたランナーの皆さんから、報告書が届きましたので紹介します。

◇マラソン大会の雰囲気は日本と異なっており元気な応援など、楽しむことができました。赤い山や砂漠、無音地帯などが印象に残っています。代表の選手として、同行した派遣団の皆さんにはいろいろ声を掛けていただき、応援していただきました。とても貴重な体験ができました。

(片岡哲朗さん)

◇沿道では小さな子どもたちとハイタッチをすることができ、テンションがあがりました。広大なユタの山々が遠くまではつきりと見え、その感動で気持ち前向きになれました。たくさんの方々の応援のおかげで、ゴールまでたどり着くことができました。ホストファミリーも応援に駆けつけてくれ、心から喜んでくれました。

(風岡さやかさん)

◇マラソン大会の雰囲気は非常に賑

やかで、沿道の声援も盛り上がり、地元学校のブラスバンドの応援に励まされました。町全体が一体となっているのが伝わってきました。ゴールでは妻がゴールラインで迎えてくれるなどのサプライズがあり、今までで一番の思い出となりました。

(西田知弘さん)

◇景色の変わらない果てしなく続く一本道のコースは不安でいっぱいでしたが、いろいろな方々の励ましや応援があり、時間はかかりましたが無事完走することができました。現地の方々の温かさ、優しさにふれ、広大な景色に感動し、一生の思い出になりました。

(上田智美さん)



▲セントジョージマラソンスタート地点で記念写真